

# 男性のDV被害と ジェンダー・ステレオタイプ

弁護士・社会福祉士  
浦崎寛泰 Hiroyasu Urazaki

精神保健福祉士・社会福祉士  
佐藤香奈子 Kanako Sato

## I 事例編

とある若手弁護士（以下「弁」）が、独立型事務所を経営するベテランのソーシャルワーカー（以下「SW」）に、ある事件の悩みを相談しました。

### ❖ 1 男性のDV被害!?

**弁** 先日、ある男性の相談者から離婚の法律相談を受けました。相談者は40代で、同い年の妻との間に小学生の男の子がいます。妻からDVを受けているということで、離婚したいという相談でした。ただ、話を聞いていて違和感があるのです。相談者は身長180センチくらい、がっしりとした体格の方で、一方、奥さんは写真で見ると限りかなり小柄な女性のようなのですが、そんなに深刻なものなのかどうか。もしかしたら別の理由で離婚したいだけなのかもと考えると、受任してよいものか迷っています。

**SW** 依頼者の外見や様子からすると、ご相談の内容に違和感があるということでしょうか。

**弁** 外見だけでそう思うのは違うと思うのですが、依頼者は屈強な感じもしますし、妻は小柄ということなので、離婚事由になるほどの深刻なものなのかどうか、ちょっとよく分からない感じがします。

**SW** 具体的にどんなところが分かりにくいでしょうか？

**弁** 依頼者が語る被害状況と、本人の雰囲気結び付きづらいついというか……。本当にそうなのかと思ってしまうところがあります。

**SW** 一般論としては、男性がDVの被害者になることは、決して珍しいことではありません。国の調査においても、男性がDVの被害者になる割合は、決して少なくないことが分かっています<sup>1</sup>。

**弁** ただ、その多くは、言葉の暴力などの心理的なものなのではないでしょうか？ また、身体的な暴力があったとしても、体格差や力の差なども考えると、本当に深刻なケースは、包丁を持ち出す等のごく一部に限られているのではないのでしょうか？

**SW** 国の調査によれば、男性がDVの被害者になるケースでも、心理的な暴力だけでなく、身体的暴力、経済的暴力、性的暴力についての

1 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査」（令和6年3月）によれば、結婚歴のある男女（1838人）に対し、「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかの行為について、配偶者からの被害経験の有無を聞いたところ、4つの行為のいずれかの被害経験が「ある」と回答した女性は27.5%、男性は22.0%であった。